

平成 24 年 度

# 愛媛県高圧ガス保安大会

と き 平成24年10月23日(火) 14:00～  
ところ 松山市南堀端町 6-16  
『東京第一ホテル松山』

主催 愛媛県高圧ガス保安協会  
愛媛県冷凍設備保安協会  
(社)愛媛県エルピーガス協会  
愛媛県高圧ガス地域防災協議会  
(一社)愛媛県冷凍空調設備工業会

後援 経済産業省中国四国産業保安監督部四国支部  
愛 媛 県

# 大会次第

## 1 開会のことば

(一社)愛媛県冷凍空調設備工業会長

## 2 主催者あいさつ

愛媛県高圧ガス保安大会長 (愛媛県高圧ガス保安協会会長)

## 3 来賓祝辞

経済産業省中国四国産業保安監督部四国支部長

愛媛県知事

## 4 表彰式 (受賞者敬称略)

### (1) 愛媛県知事表彰

ア 優良販売事業者

一色燃料店

イ 保安功労者

じんの よういち  
神野 洋一 (愛媛県冷凍設備保安協会会長)

ウ 優良製造保安責任者

うめの ひろし  
梅野 博支 (八幡浜漁業協同組合 冷凍保安責任者)

エ 優良販売主任者

ますい まさかず  
梶井 正一 (カントメ産業㈱ 販売主任者)

### (2) 愛媛県高圧ガス保安協会会長表彰

ア 優良製造所

三好造船株式会社

イ 保安功労者

わたなべ かずし  
渡辺 和志 (住友重機械工業㈱西条工場)

ウ 優良製造保安責任者

こみ ひろし  
古味 廣志 (住友金属鉱山㈱別子事業所)

みやけ ひさお  
三宅 久雄 (波方ターミナル(株))

なかや かつひさ  
中矢 勝久 (コスモ松山石油(株)松山工場)

(3) 愛媛県冷凍設備保安協会会長表彰

ア 優良製造所

東レ株式会社愛媛工場

株式会社えひめフーズ八幡浜工場

イ 優良製造保安責任者

いわい てるみつ  
岩井 輝満 ((株)アイテック富士工場)

こんどう かずあき  
近藤 和明 (日本エイアンドエル(株)愛媛工場)

(4) (社) 愛媛県エルピーガス協会会長表彰

ア 優良販売事業者

豫洲産業株式会社

イ 優良製造保安責任者

みき まさとみ  
三木 正臣 ((有)新地商店)

ウ 優良販売主任者

たきの よしひろ  
滝野 善弘 (えひめ中央農業協同組合伊予燃料センター)

(5) 愛媛県高圧ガス地域防災協議会長表彰

ア 優良運送責任者

しのざき しゅういち  
篠崎 修一 (株)ニヤクコーポレーション近畿四国支店松山事業所)

さがわ かずみ  
佐川 数美 (株)増田運送)

ウ 優良移動監視者

ごうだ ひでお  
合田 秀夫 (高松帝酸(株)新居浜事業所)

かわくぼ ひろえ  
川久保 広栄 ((株)ニヤクコーポレーション近畿四国支店松山事業所)

むらかみ ゆうじ  
村上 勇治 ((株)増田運送)

(6) (一社)愛媛県冷凍空調設備工業会長表彰

保安功労者

ふくやま みつお  
福山 光夫 ((有)福山冷機サービス)

やまさき すみお  
山崎 廉夫 (山崎設備)

(7) 謝 辞

受賞者代表

5 記念講演

演題: 東日本大震災後の福島原子力発電所における産業医療活動を振り返って

講師: 愛媛大学大学院医学系研究科

教授 谷川 武 先生

6 大会宣言並びに決議

愛媛県冷凍設備保安協会長

7 閉会のことば

(社)愛媛県エルピーガス協会長

以上

## 大会宣言

愛媛県における高圧ガスの保安については、関係各位がたゆまぬ保安活動を日夜推進している。

しかしながら、高圧ガスの事故件数を全国的に見れば、ここ十年あまりで急激な増加傾向を示しており、憂慮すべき事態である。

更に、昨年の中日本大震災を踏まえ、今後発生が予想されている東海・東南海・南海地震などの自然災害発生時への対応を含めた危機管理に対する社会的要請は極めて大きい。

我々は、この現状を深く認識し、保安・防災対策の更なる強化に努め、保安の確保に徹しなければならない。

また、社会全体にも広く高圧ガス危害予防思想を浸透させて、保安意識の高揚及び保安活動の促進に努め、安全で豊かな郷土づくりと地域振興に協力し、県民の期待に応えなければならない。

ここに本大会の名において、決意を新たに総力を結集して、次のことを強力に推進し、高圧ガス事故の根絶をめざすものである。

- 一、法令遵守の徹底、自主保安意識の高揚及び教育訓練の徹底
- 一、高圧ガス設備の点検・整備の充実強化
- 一、防災対策の推進及び防災意識の高揚
- 一、一酸化炭素中毒事故防止等消費先における安全対策の徹底
- 一、高圧ガス容器の管理及び運送中の安全対策の徹底

右宣言する。

平成二十四年十月二十三日

愛媛県高圧ガス保安大会

**演題：東日本大震災後の福島原子力発電所における産業医活動を振り返って**

**講師：愛媛大学大学院医学系研究科 教授 谷川 武 先生**

2011年3月11日に発生した東日本大震災による津波によって、東京電力福島第一原子力発電所は我が国史上初めての重大事故を起こし、我が国はもとより世界にも深刻な影響をもたらしている。この事故の復旧にあたっては、現場で事故収束にあたる社員一人一人の最大限の努力が求められているが、一方で彼らの継続的な心身の健康管理が不可欠である。演者は、非常勤産業医の立場として、4月16～19日に最初の健康管理支援を行った。その際、PTSDを含め、様々なストレス対策が必要であると予想し、準備を進めていた。実際、ストレス対策が重要であることを裏付ける面談結果を十数名から得たが、それ以上に震災後一カ月以上経っていたにもかかわらず住環境、食事という基本的な生活環境の整備が遅れていることによる健康障害が危惧された。自宅通勤ができない状況で泊まり込む体育館では、食事が十分ではないというプライバシーもなく、いびきにより集団の睡眠が妨げられていた。そこでまず、消灯後、体育館を巡視し、睡眠時の無呼吸を伴う大きないびきをかく社員への面談、治療を実施した。社員の生活環境の改善については、会社側も熱心に検討していたが、原発事故によって避難を余儀なくされている方に配慮して、なかなか進めることができなかつたと考えられた。演者は、メディアを通じて「原発で働く人々の生活環境改善は危険な作業を安全に進めるために必要不可欠であり、その整備は避難者が地元に戻ることにつながる」という趣旨を説明することに努めた。その後、東京電力に寄せられた国民の声も、社員の生活環境改善に「賛成9割、反対1割」に至った。その後、4月訪問時に提案したにもかかわらず不可能とされていた体育館での二段式ベッドの設置、生野菜の供給、シャワーの設置、が5月下旬から6月にかけて実現し、社員の生活環境は大幅に改善した。また、メンタルヘルスケアについても初回訪問時のメディア報道を見て応援を申し出て頂いた防衛医科大学精神科のチームとの長期的対策が確立し、早急にとったアンケート結果から心的外傷後ストレス反応を有する者が多いことが判明した。本講演では、上記のように震災直後の産業医活動として求められた様々なアプローチの概要について述べる。

#### 【講師略歴】

1986年神戸大学医学部卒。1990年東京大学大学院修了、医学博士。東京大学医学部助手、Harvard Medical School客員講師（1999-2000）、筑波大学講師、助教授を経て、2008年から愛媛大学大学院公衆衛生・健康医学分野教授。日本公衆衛生学会評議員（2005-11年）